

ちがっても…いいね◎

所属	名古屋市立大杉小学校	実践者	服部 秀子 (G)
対象	小学校2年生	時間数	12時間
場所	教室	実践教科	道徳・学級活動
ねらい	日本とは異なるガーナの文化や習慣を知り、それらの体験を通して楽しさを味わい、他者との違いを肯定的に受け止めようとする態度を養う。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1・2	参加型の基礎を培うⅠ ○「より良い話し方を考えよう」 ① 良い話し方・悪い話し方を考える。(ブレンストーミング) ② 良い話し方・悪い話し方を体験する。(ロールプレイ) ③ 振り返り。(気付いたこと・今後やってみたいこと)	
	3・4	参加型の基礎を培うⅡ ○「より良い聞き方を考えよう」 ① 良い聞き方・悪い聞き方を考える。(ブレンストーミング) ② 良い聞き方・悪い聞き方を体験する。(ロールプレイ) ③ 振り返り。(気付いたこと・今後やってみたいこと)	
	5・6	チョコレートを通してガーナとの繋がりを知る ○「みんなのチョコレートはどうやってできてるの？」 ① 写真や動画で紹介。(クイズ形式) ② ガーナのチョコレートを食べる。 ③ 「みんなの毎日は、みんなの力だけでできてる？」について考え、自分の生活を振り返る。	パワーポイント資料 ガーナ産チョコレート
	7・8	ガーナの文化を知り、違いを楽しむ ○「ガーナ」ってどんな国？ ① 写真や動画で紹介 (クイズ形式) ② チュエイ語で挨拶と自己紹介をする。(名前も曜日別のものにする) ③ 頭に物を乗せて運んでみる。リレーで競争。 ④ ガーナの楽器や衣装に触れる。 ⑤ 「人とちがうことっていけないこと？」について考え、自分の生活を振り返る。	パワーポイント資料 ガーナ BOX 児童の生まれた曜日
	9・10	ジャンケンがなくても仲良く過ごせる方法に気付く。 ○「ジャンケンって何のため？だれのため？」 ① 「世界のジャンケンをやってみよう！」(アイスブレーキング) ② どんな時にジャンケンをしてきたか考える。(ブレンストーミング) ③ ガーナにはジャンケンがないことを知る。 ④ ジャンケンと話し合いの良い点を考える。(ブレンストーミング) ⑤ 具体的な場面をジャンケンと話し合いに割り振る。(対比表) ⑥ 振り返り。	アメリカとフィリピンのジャンケン ガーナの子どもの写真
	11・12	違いから生まれるものに気付き、その良さを味わう。 ○「ちがっても…いいね」 ① 動物当て YES/NO クイズ(アイスブレーキング) ② みんな同じの世界・みんな違う世界の良い所・悪い所を考え、発表する。(ブレンストーミング) ③ どの世界に暮らしたいかを選び、その理由を考える。	
成果	世界との繋がりを、文化の違い、多様性の価値に気付かせたことで、児童1人1人の世界観を広げることができた。また、ガーナを肯定的に捉え、ガーナに行ってみたくて願う児童が多く出てきたことが何よりの成果だったと思う。		
課題	他国との「大きな違い」は肯定的に受け入れることができても、身近な友達の「小さな違い」には否定的に捉えてしまう。児童がいたことから、まだ気付きから行動に至っていないと感じた。多様性について考える機会を、今後も継続的に設ける必要がある。		
備考			

[授業実践の詳細]

1-2 時限目「より良い話し方を考えよう」

1 子どもの活動の流れ

- ① 悪い話し方を考える…「何を伝えたいかよく分からないな」と感じる時の話し手の態度を考える。
- ② 良い話し方を考える…「熱心に話してくれているな」と感じる時の話し手の態度を考える。
- ③ 両方の態度で話すことを体験し、聞き手の感想を発表する。〈教材1〉
- ④ 振り返りシートに、気付いたことや今後やっていきたいことを記入する。〈教材2〉

この時限のねらい

- 気持ちを伝え合うためには、話し手にも工夫が必要だと気付き、より良く話そうとする気持ちを高める。
- 参加型学習の基盤となる話し合い活動のマナーやルールを確認する。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 話す時は「相手の目を見る」「大きな声ではっきりと話す」等、知識としてもってはいたが、実際に体験したことで、なぜそうすることが必要なのかに気付くことができた。
- ◇ これまでは、自分の気持ちを相手に伝えることが苦手な児童は、話し合いに参加しきれない場面がよく見られた。しかし、この授業で学んだことを実践しようとする姿から、より良く話そうとする気持ちの高まりが感じられた。



3 使用した教材

〈教材1〉 話す内容の定型文(掲示用)「私の名前は〇〇です。好きな食べ物は△△です。好きな遊びは◇◇です。」
 〈教材2〉 振り返りシート

3-4 時限目「より良い聞き方を考えよう」

1 子どもの活動の流れ

- ① 悪い聞き方を考える…「あんまり聞いてくれないな」と感じる時の聞き手の態度を考える。
- ② 良い話し方を考える…「一生懸命聞いてくれているな」と感じる時の聞き手の態度を考える。
- ③ 両方の態度で話を聞くことを体験し、話し手の感想を発表する。〈教材1〉
- ④ 振り返りシートに、気付いたことや今後やっていきたいことを記入する。〈教材2〉

この時限のねらい

- 気持ちを伝え合うためには、話し手だけでなく、聞き手にも工夫が必要だと気付き、より良く聞こうとする気持ちを高める。
- 参加型学習の基盤となる話し合い活動のマナーやルールを確認する。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 聞き手の工夫を友達への思いやりだと考える児童が多かったので、児童同士の人間関係を良好にすることにも役立った。
- ◇ 「何も思いつかない時に、友達の考えを聞いて、なるほどと思いました。」という振り返りがあり、人の意見を積極的に聞こうとする態度が身に付き始めてきたと感じた。



3 使用した教材

<教材1> 話す内容の定型文(掲示用) 「私の名前は〇〇です。好きな食べ物は△△です。好きな遊びは◇◇です。」 <教材2> 振り返りシート

5-6 時限目「みんなのチョコレートはどうやってできてるの？」

1 子どもの活動の流れ

- ① チョコレート生産の過程や日本とガーナの繋がりを知る。
〈パワーポイントでクイズ形式〉
- ② ガーナのチョコレートを食べてみる。
- ③ 「みんなの毎日は、みんなの力だけでできていますか？」
について考え、振り返りシートに記入する。

この時限のねらい

- チョコレートを通して、自分たちの暮らしが世界と繋がっていることに気づき、当たり前にあると思っていたものに感謝する心を育む。
- 日本とは違うチョコレートを味わい、異文化への関心を高める。

わたしたちの チョコレートは どうやって できてるの？

日本にカカオの木は、何本くらいあるでしょう？

- ① 500本
- ② 1000本
- ③ ほとんど ない

せかいで1ばん多くカカオを そだてている 国は？

- ① コートジボワール
- ② ガーナ
- ③ ブラジル

みんなへ おみやげ👉

ガーナの チョコレートを たべてみよう！

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 終始、子ども達はパワーポイントの画面に釘付で、興味津々な様子だった。
- ◇ ガーナの人々がカカオの検査を行っている動画を見せると、「僕たちのために、こんなに大変なことをやってくれてるんだ」とつぶやく児童がいた。
- ◇ ガーナのチョコレートは「美味しい」と答える児童が多かった。◇振り返りは以下の通り。

- ・ 私たちの毎日は、日本の人たちの力だけじゃないんだって思いました。
- ・ ガーナの人たちはとても親切で、優しい人なんですね。
- ・ ガーナという国があってくれて本当に良かった。
- ・ 色んな人に「ありがとう」って言わなきゃいけないと思いました。

3 使用した教材

<教材3> パワーポイント資料「私たちのチョコレートはどうやってできてるの？」

<教材4> ガーナ産のチョコレート

7-8 時限目「ガーナってどんな国？」

1 子どもの活動の流れ

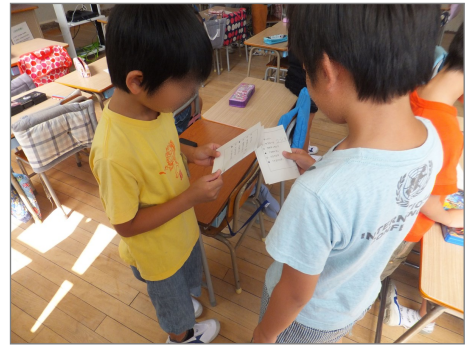
- ① 日本とは違うガーナの文化や習慣を知る。〈クイズ形式〉
- ② チュイ語で自己紹介をする。
- ③ 頭にお道具箱を乗せて運ぶ。リレー形式で競争。
- ④ ガーナの楽器や衣装を見る。
- ⑤ 「人と違っていけないこと？」について考え、振り返りシートに記入する。

この時限のねらい

- 日本とガーナの文化や習慣の違いを知り、異文化体験を通して、その良さをを感じる。
- 「他国との違い」から「人との違い」に気付き、それを肯定的に捉えようとする気持ちを高める。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ チュイ語の挨拶や自分のガーナ式の名前を一生懸命覚えようとする児童が多く、数日間は教室内でチュイ語が聞こえてきたことから、異文化を楽しんでいると感じた。
- ◇ 頭に物を乗せて運ぶのはとても難しく、ガーナの人の写真を参考にしながら「背中を伸ばせばいいんだ！」と気付き、実践していた。
- ◇ 振り返りは以下の通り。



- ・ ガーナには日本と違うことがたくさんあって、全部楽しかった。
- ・ 日本と違うことがあることに驚きました。でもそれはいけないことではないと思います。
- ・ たくさんのがちがうけど、でも同じものもありました。人と人とか。
- ・ 違うから、面白かった。だから、いけないことじゃない。
- ・ 大人になって「行きたい国は？」って聞かれたら、大きな声で「ガーナ！」って言う。

3 使用した教材

<教材5> パワーポイント資料
「ガーナってどんな国？」

ガーナのこっきは、どれでしょう？

① ② ③



「フーフー」

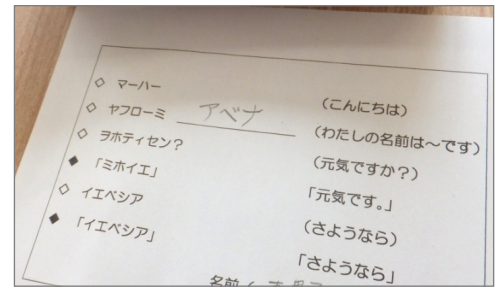
日本のあるたべものによく似ていますが、それは何でしょう？



- ① ホットケーキ
- ② おもち
- ③ スパゲッティ

- <教材6>
子ども達のガーナ式の名前
- <教材7>
チュイ語の自己紹介カード
- <教材8>
ガーナBOX (楽器・衣装)

生まれた曜日で		名前がきまる	
月曜日	男 コジョ	女	アジョア
火曜日	男 クワベナ	女	アベナ
水曜日	男 クエク	女	エクア
木曜日	男 ヤオ	女	ヤア
金曜日	男 コフィ	女	エファア
土曜日	男 クワメ	女	アマ
日曜日	男 クエシ	女	アコシア



9-10 時限目「ジャンケンって何のため? だれのため?」

1 子どもの活動の流れ

- ① 世界のジャンケンをやってみよう! <アイスブレイキング>
- ② どんな時にジャンケンをしてきたかを考える。
<ブレインストーミング>
- ③ 質問について、自分の考えをもつ。

【質問】

みんな やったことのない たのしそうな おもちゃが
はんに 1つだけ くばられます。
それで あそべるのは 1人だけです。
おもちゃで遊ぶ人を
ジャンケンで きめますか? 話し合いで きめますか?

- ④ ガーナにはジャンケンがないことを知り、ジャンケンと話し合い、それぞれの良い点を考え、発表する。
<ブレインストーミング>
- ⑤ 具体的な場面が書かれた7枚のカードを、ジャンケンか話し合いに割り振る。<対比表>
- ⑥ ギャラリー方式で共有する。
- ⑦ 「ジャンケンを使った方がいいのは、どんなことを決める時?」
「話し合いをした方がいい時は、どんなことを決める時?」について考え、振り返りシートを記入する。

この時限のねらい

- 自分たちの当たり前が、世界の当たり前ではないことに気付く。
- ジャンケンの長所と短所に気付き、話し合いで決めることの大切さを知り、生活の中で生かそうとする。



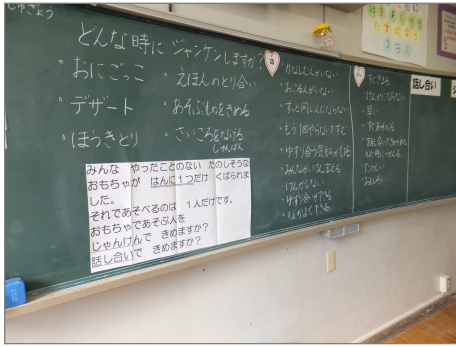
2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 【ジャンケンの良いところ】 →すぐ決まるし。楽しい。話し合いで決められない時に使える。
【話し合いの良いところ】 →譲り合う気持ちもてる。みんなの意見が聞けるし、自分も言える。
悲しむ人や怒る人がいない。
- ◇ 振り返りシート・・・ジャンケンは、簡単なことを早く決める時や誰がやっても同じ時等の意見が多かった。
話し合いは、大切なことを決める時やみんなの意見を聞く必要がある時などの意見が多かった。

3 使用した教材

- <教材9> アメリカ・フィリピンのジャンケン

<教材10> 【質問】掲示用



<教材11> ガーナの子供たちの写真



<教材12> 場面カード(鬼ごっこの鬼・ドッジボールで最初に投げる人・給食のデザート・ゲームで遊ぶ順番・学級目標・係決め・学級委員)と対比表

11-12 時限目「ちがっても…いいね！」

1 子どもの活動の流れ

- ① 動物当て YES/NO クイズ<アイスブレイキング>…動物園に来て、最初に見たい動物をカードに書き、他の児童がそれを当てる。
- ② 「もしも、みんなが同じ世界だったら…」…どんな良いこと、悪いことが起こるかを考える。〈ブレインストーミング・対比表〉
- ③ 「もしも、みんなが違う世界だったら…」…どんな良いこと、悪いことが起こるかを考える。〈ブレインストーミング・対比表〉
- ④ 振り返りシートに記入する…自分だったら、「同じ・違う・両方ある」世界のどれに住みたいかを選び、理由に書く。

この時限のねらい

- 人と同じこと、違うことによつて、どんなことが起こっているのかに気付く。
- 自分たちの暮らしには、他の人と同じことも違うことも必要なのだと知り、友達との違いを受け入れ、認めようとする態度を養う。

2 子どもの活動の成果・反応

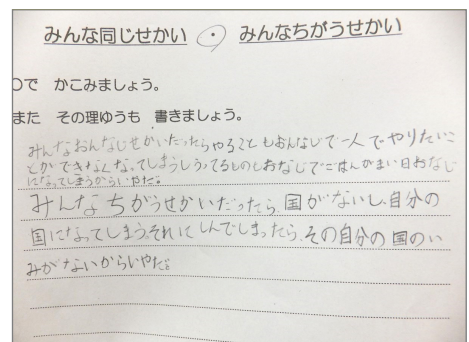
- ◇ 【みんなと同じだと起こる良いこと】…やりたいことが同じなら、みんなで一緒に遊ぶことができる。／ドベになることがない。／女の子でも、男の子みたいに遊べる。(その逆も)／言葉が1つになって、世界の人たちと話せる。
- 【みんな違うと起こる良いこと】…1人になれる。(一人で遊びたい時もあるから)／食べ物を奪い合わない。(食べたい物が違うから)／違うやり方があると便利。
- ◇ 同じことも大事、違うことも大事と考える児童が多かった。



3 使用した教材

<教材13> ブレインストーミング用のワークシート

<教材14> 振り返りワークシート



■ 全体を通して

1 授業の様子

【ガーナはどこ？】

ガーナで購入したアフリカが中心の世界地図にとっても驚き、大人気だった。休み時間のたびに地図の前に集まって、ガーナの位置や国旗、人口を見て、日本と比べたり、他の国を探したりしていた。給食で外国の食べ物が出ると、その地図で使って、子ども同士でクイズを出し合っていた姿が印象的だった。



【初めてのギャラリー方式】

初めてのギャラリー方式で、学齢を考えると、集中が切れてしまうことも心配したが、友達に考えに興味を示し、真剣に見入る児童が多かった。



2 参考文献・資料

- 1) 小幡小学校アクティビティ集 2013 年度版